アドバンスト施設による
次世代介護機器導入事例

マスコットキャラクター
すこふくちゃん

社会福祉法人すこやか福祉会
特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷

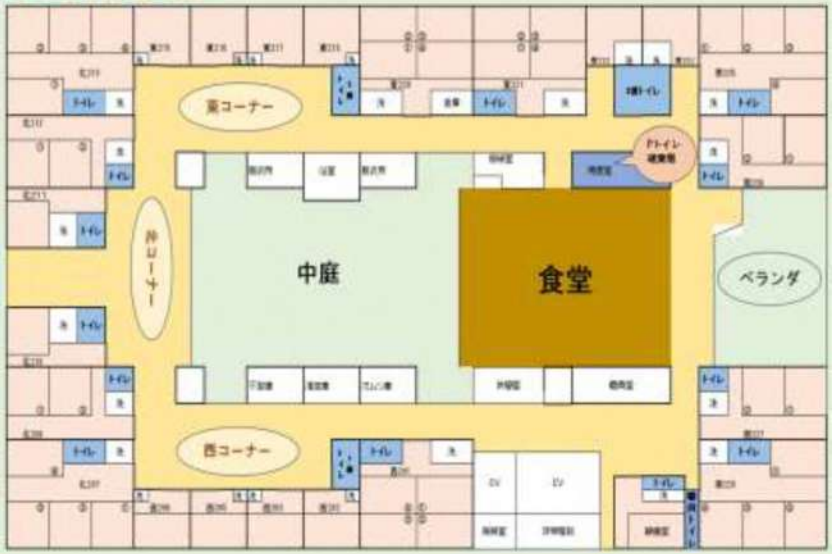
本日お話しする内容

○　施設概要
○　導入した次世代介護機器
○　導入の手順
○　取組内容（手順１～６）
○　取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
○　次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

施設概要

運営法人	社会福祉法人すこやか福祉会
施設名	特別養護老人ホーム葛飾やすらぎの郷
所在地	東京都葛飾区新宿3-4-10
定員	96名
平均介護度	4.0
職員数	介護39名、看護5名、相談員1名、介護支援専門員2名、管理栄養士1名、事務2名
特徴	2001年開設された従来型の特別養護老人ホームである。 1階デイサービス 2.3階が特別養護老人ホーム 1フロア48名の方が生活されている。 ショートステイ5名

フロア見取り図



福祉用具（リフト）を活用

導入した次世代介護機器

メーカー名	アイ・ソネックス　株式会社
機器名	スカイリフト SL-2018R
台数	2台

導入の手順

導入の６つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	● 情報収集 ● 取組に対する組織全体での合意形成 ● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を見える化しよう	● 課題の見える化
手順 3	実行計画を立てよう	● 導入計画づくり ● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に取り組もう	● 導入準備 ● 次世代介護機器の活用 ● 小さな成功事例
手順 5	改善活動を振り返ろう	● 効果検証 ● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を練り直そう	● 実行計画の練り直し

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

取組期間：
約3カ月

取組実施者：約12名
(職種：介護・看護・相談・
介護支援専門・事務

手順１：改善活動の準備をしよう

取組期間：3月20日～5月31日

手順1
- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- 東京都のモデル施設のインタビューなどを閲覧、参考にした。
- 2023年度ノーリフティングケアマネジメント研修の受講をきっかけにスタンディングリフトの導入と効果、腰痛リスクを減らす取り組みが必要だと学んだ。
- 当施設は福祉用具を活用しているが、スタンディングリフトは上手くいかず課題だった。

● 取組に対する組織全体での合意形成

- ノーリフティング委員会を立ち上げ、腰痛予防の取り組みとして、スタンディングリフト購入のための補助金申請の同意を得る。
- 月1回発行しているやすらぎ便りに写真付きで掲載し紹介をした。

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	統括責任者
2	介護部長	情報収集　補助金申請
3	介護主任	調査　研修　マニュアル　運用ルール
4	介護主任	調査　研修　マニュアル　運用ルール
5	介護副主任	研修　技術　リスク検討
6	介護副主任	研修　技術　リスク検討

手順２：現場の課題を見える化しよう

取組期間：3月20日～5月31日

手順2
- 課題の見える化

● 課題の見える化

原因

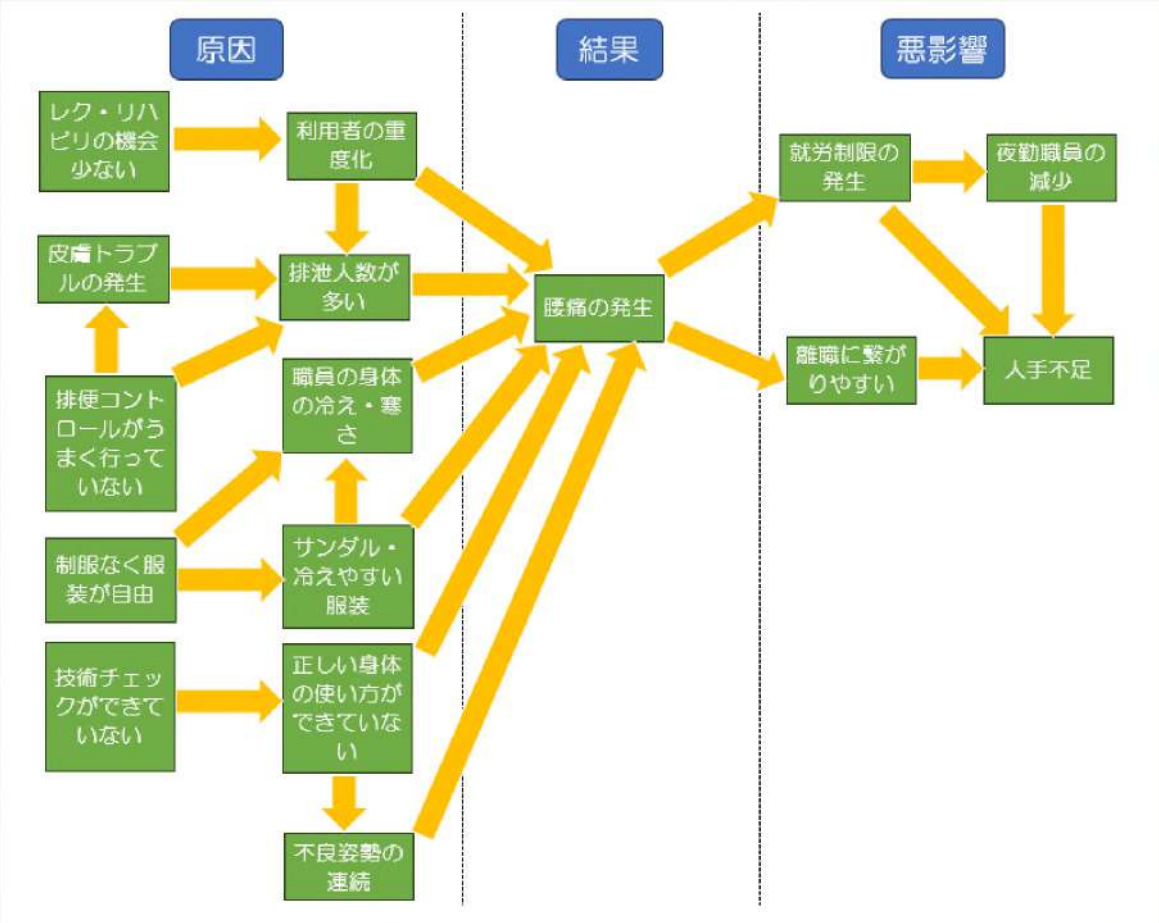
・利用者の重度化
・レク、リハビリの機会少ない
・排泄人数が多い
・排便コントロールがうまくいっていない
・不良姿勢の連続
・技術チェックができていない
・正しい身体の使い方ができていない
・皮膚トラブルの発生
・サンダル、冷えやすい服装
・制服なく服装が自由

結果

腰痛の発生

悪影響

・就労制限の発生
・離職に繋がりやすい
・夜勤職員の減少
・人手不足



手順３：実行計画を立てよう

取組期間：3月20日～5月31日

手順3
- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

- **立位保持が難しい方のトイレ誘導が可能となり、利用者、職員が負担なく安全にトイレ介助ができる。**
- **自立支援の取り組みとして、スタンディングリフトを導入する。トイレでの排泄介助者を選定しトイレ介助者を増やす取り組みはより一層の自立支援の取り組みの向上に繋がる。**

□ 導入する次世代介護機器

- **移動支援機器　スカイリフトSL-2018R**

□ 成果指標

- **排泄介助時、ベッド上の**パッド交換8名からトイレ誘導8名**にプランを変更する**
- **職員の身体的負担感軽減を目的に、**移乗・移動時間を5分短縮する**
  浴後の着衣はスタンディングリフトで立位をとり、着衣完了、車いすに着座するまでの時間を測定
- **腰の負担感の度合いをアンケート調査し、**5段階評価で3以下の職員の割合を70%以上を目指す**

手順３：実行計画を立てよう

取組期間：3月20日～5月31日

手順3
- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- 2階・3階フロア
- トイレに座りたいとの希望があり、トイレ介助、移乗時に立位保持が難しい、協力動作の得られる、**後方支持型（後ろに突っ張るような）の姿勢の方**

□ 選定理由

- ベッドから車いす、車いすからトイレへ、といった座位間の移乗動作や、トイレでの立位保持が可能となる。
- 下肢筋力の低下など様々な理由により立位保持が難しい状況でも、**ご本人の希望を叶えるサポートができる。**

□ 選定する際に留意した点

- 使用した際に**痛みの訴え**があるか、**苦痛な表情**をしていないか、**膝がある程度伸びる、可動域制限のない方**

手順４ ：改善活動に取り組もう

取組期間：3月20日～5月31日

手順4
- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

ロ 実施内容

①2023年度、排泄ケア用介護リフト　スカイリフトのデモ機を導入

手順４ ：改善活動に取り組もう

取組期間：3月20日～5月31日

手順4
- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

②マニュアルの作成

- **2025年度の本格導入に向けて、スカイリフトの使用方法についてマニュアルを作成した。**

スタンディングリフト(スカイリフト)

目的	1 移乗時の事故リスクを軽減する。 2 介助者の負担を減らし、腰痛を予防する。 3 安全に移乗するため。
リフトの特徴	立位の保持を目的としたリフトのこと。下衣の上げ下げが行いやすいため移乗時だけではなくトイレ誘導時にも使用しやすい。専用のシートを使用しリモコンで操作する。後方支持型のリフトで重心が後方にある利用者に適している。 ※注意点 ・①重心が前にある②脱力感の強い③声掛けや指示の伝わりにくいなど利用者のADLによっては使用に適さない場合もある。使用時はアセスメントを行い適性があるか評価を行う。 ・リフトの充電を使い切ってしまうと、バッテリー自体(高価)を交換しなくてはならないので使用時以外は常に充電する。 ・吊り上げている際に、リフトの故障でリモコン操作ができなくなった場合は緊急降下のシステムを使用する。 ・リモコンのコードを引っ張ったりねじったりすると断線してしまうので注意すること。

項目	手順	根拠	留意点
	①エアスリングシート 		①全面が青い方が外側。白い滑り止めが付いている方が内側。
	②スリングの装着 背部のセンターを合わせ、スリングの下端が臀部にやや敷きこまれるように差し込む。 	②センターを合わせることで吊り姿勢が左右均等になる。 臀部まで敷きこむことで立ち上がった時に臀部のずり落ちを防ぐ。	

項目	手順	根拠	留意点
	③リフトの電源を入れる 		③赤いボタンが電源ボタン
	④車椅子の幅より脚部を開く 「ひらく」ボタンを押し脚部を開く 	④脚部を開くと立位を取り移動する際にリフトの安定性が出る	
	⑤足台に足を乗せる 足を乗せやすいようにリフトの胸パッドを腹部に合わせてから両足を乗せる。 ⑥胸パッドを腹部に当てる スカイリフトを寄せて胸パッドを腹部にぴったりと当てる。 輪のキャスターをロックする。 ⑦膝パッドを膝に合わせる 膝パット調整レバーを解除し、膝に合うまで長さを調節する。 調整レバーをロックしたら膝ベルトで両足を固定する。 	⑥リフトと車椅子の距離がズレないようにする。 ⑦立ち上がった際に下肢が動かないように固定する。	
	⑧胸パッドを下げる		⑧センサー付

手順４ ：改善活動に取り組もう

取組期間：3月20日～5月31日

手順4
- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

ロ 導入にあたって大切にしたポイント

- 事故がないように使用方法をレクチャーし、介護課職員全員が使用できるよう研修計画を作成し進めた。
- 上手くいかなくても別利用者に試し、対象利用者をピックアップする話し合いを進めた。

手順４ ：改善活動に取り組もう

取組期間：3月20日～5月31日

手順4
- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 小さな成功事例の共有

□ 職員の声

1）スタンディングリフトを使用して腰の負担がなくなり、楽になった。

2）気持ちに余裕ができた。

□ 利用者の様子、変化

1）最初は不安そうな表情だったが、今では笑顔が見られるようになった。

2）車いす上で傾いていた姿勢が改善し、安定するようになった。

□ 成功事例の共有方法

- 1）介護記録支援ソフトに記載をした。
- 2）朝の申し送り、ノーリフティング委員会で情報共有をした。

手順５：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

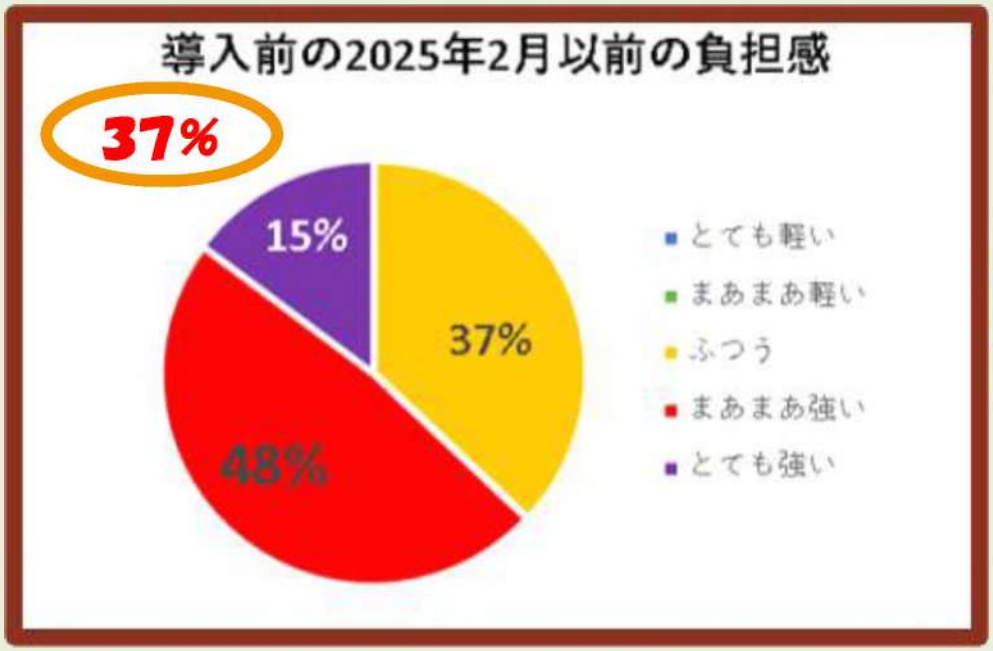
- **設定した成果指標における効果検証**

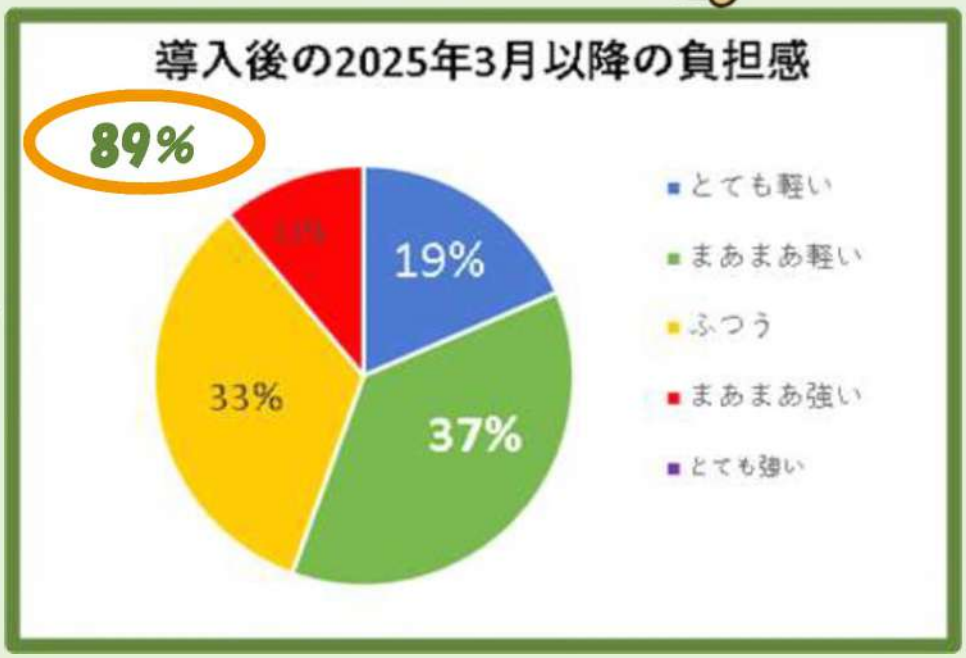
□ 腰の負担感の度合いをアンケート調査

5段階評価　（ 1とても軽い　2 まあまあ軽い　3ふつう　4まあまあ強い　5とても強い ）

ふつうの3以下の職員の割合70%以上を目指す

導入後の2025年3月以降の腰の負担感
ふつうの3以下職員の割合70%以上を達成（合計89%）





手順５ ：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- **取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析**

ロ 上手くいった点・その要因

- **脱衣所にベッドは置いていないため、オムツ着用、ズボンの着衣は居室ベッドにて行っていた。**

手順５ ：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- **取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析**

ロ 上手くいった点・その要因

- **入浴後、脱衣所にて着衣動作ができる。オムツ着用、ズボンの着衣動作が5分短縮した**

手順５ ：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- **取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析**

ロ 上手くいった点・その要因

- **トイレ後に浴室へ・浴後にトイレへなど、移動もスムーズになる**

手順５ ：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- **取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析**

ロ 上手くいった点・その要因

- **座位姿勢の傾きが改善し姿勢が安定。食事も全介助から一部介助になった。**

手順５ ：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- **取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析**

ロ 上手くいった点・その要因

- リハビリ目的でも使用可能であり、対象者が広まることがわかった。

手順５ ：改善活動を振り返ろう

取組期間：3月20日～5月31日

手順5
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

- **取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析**

□ **上手くいかなかった点・その要因**

- **オムツ交換からトイレ誘導に変更できる対象利用者が少ない。**
- **立位保持が難しい方を対象に使用しているが、膝の可動域に制限がある、痛みの訴えが聞かれる方は対象外とした。思うように使用人数が増えていない。**

トライアンドエラー

手順６ ：実行計画を練り直そう

取組期間：3月20日～5月31日

手順6

● 実行計画の練り直し

● **取組(全体)を通して見直したこと**

- **再度、対象利用者の見直し、検討を行った。**
  ⇒トイレ誘導者を増やしたいと思って取り組んでいたが、リハビリ目的での使用も可能ということがわかった。

手順６ ：実行計画を練り直そう

取組期間：3月20日～5月31日

手順6
- 実行計画の練り直し

- **取組(全体)を通して見直したこと**

  - **職員体制の見直しを行った。**

⇒ 午前の職員体制を見直すことで、午前もスカイリフトを使用して
トイレ誘導ができた

		早番1	早番2	早番3	日勤	日勤	遅番1	遅番2	夜勤1・2
0:00									巡視
1:00									
2:00									
3:00									巡視、排泄介
4:00									
5:00									排泄介助、モーニングケア、離床介助
6:00									
7:00		モーニングケア、離床介助	モーニングケア、離床介助						
8:00	朝食	配膳、食事介助、服薬介助	配膳、食事介助、服薬介助	配膳、食事介助、服薬介助		朝礼、食事介助			
8:30									
9:00									
9:30		臥床介助 排泄介助	入浴介助	臥床介助 排泄介助	入浴介助	申し送り、臥床介助、ショートステイ入所受け入れ			申し送り
9:45									退勤
10:00									
11:00									
11:30		休憩	休憩	離床介助		離床介助			
12:00							離床介助		

日勤職員1名増やす

手順６ ：実行計画を練り直そう

取組期間：3月20日～5月31日

手順6

● 実行計画の練り直し

● **取組(全体)を通して見直したこと**

- **スカイリフトの使用法をもう一度レクチャーした。**

⇒対象者が広まったことで片麻痺の方も対象とした。そのための研修を実施。

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- どのような方を対象に使用すればよいのか悩んだ。
- この方ならできると思っても結果は難しく不安な気持ちになった。
- 職員から腰が楽になった、気持ちに余裕ができた、利用者から笑顔が見られるようになったなど、変化が現れるまでに時間がかかった。
- 役職職員と共に考えて、悩んで、進めていく。その取り組みを全職員に繋げていくことが大切ということを学んだ。

全てはチーム力

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

- スタンディングリフトを使用する前から対象者がいないとあきらめていた。
  ⇒あきらめずに取り組んでよかった

- 利用者はスカイリフトを使用することで、立位が保持でき、ストレッチもでき、発語も聞かれるようになった。
  車いす上の姿勢改善にも繋がった。
  ⇒利用者、職員の変化を見ることができる

- 職員は積極的に対象利用者を検討するようになった。
  使用頻度も増えた。
  ⇒さらに台数を増やす、別のスタンディングリフトの導入を検討